

～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた (17)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介します。



こ 湖底にねむる曾根遺跡

諏訪湖底の曾根遺跡が発見されたのは、明治三十九年のことであった。縄文時代の初め、数千年も前に湖畔には人が住んでいたといわれる。このころは、洞窟とか岩陰に住居を求めた時代であったが、湖底からおびただしい出土品があつて、それらは曾根様式と名付けられた。この湖底の出土については諸説があつて、いまなお東南アジアの原住民に見られるように水上に杭を打つてその上に住居を築いて住んでいたという「杭上住居説」がある。そして、昔は島があつてそこに人が住んでいたが、あるとき突然にその島が陥没して湖底に沈んでしまったのではないかと、「湖島陥没説」もある。さらに諏訪湖の水位は時々変動が起り、水位が低かった時代湖畔に人々が住んでいたが、やがて水位が高くなって昔の陸地が湖底に没してしまつたのではないかともいわれる。いまなお、たくさん謎を残して研究の対象となっている。



ろ 医は仁術徳本の薬は十六文

「近世奇人伝」によると、江戸時代の初め永田徳本という医聖が岡谷東堀村に住んでいた。薬籠を背負つて諸国を巡り、甲斐の徳本一服十六文（十八文ともいふ）と呼び歩いてた。徳川秀忠が重病となつたとき、諸医が手を尽くしたが効なく最後に徳本が召出されて、劇薬を主剤とする秘薬を進めてたちどころにこれをなおしたが、その謝礼に十六文しか受けとらなかつたといわれる。権力にこびず名利を求めない人であった。もと甲斐の国に住んで武田氏に仕えたこともあり、甲州ぶどうの栽培をはじめた人といわれる。庶民のため医療を行い、新しい産業をすすめる医聖と呼ばれるにふさわしい人であった。寛永七年（一六三〇）百十八歳でなくなった。いまなお徳本の使つた薬釜は御子柴家に伝えられていて、東堀の尼堂墓地には乾室徳本庵主と刻まれた大きな藍塔がある。

第41回 農業祭大盛況

新鮮！安全！
みんな大満足！！

百歳敬老祝賀訪問

とても明るくて
元気な方でした。

「生涯学習」

素敵な趣味を大切に。
元気で長生きを！

町は今年百歳を迎える5人に町や国などからのお祝い品を贈り、その内3人には青木町長が直接お祝い品を手渡し長寿をお祝いしました。（写真は中央通在住の滝沢豊次さん）

明日のマーチ

石田 衣良 作
新潮社
前ふれもなく派遣切りされた4人の若者は、ひよんなことから山形県鶴岡から東京まで六百キロの道のりを徒歩で帰ることに。気ままに自由な徒歩の旅は、ブログ掲載をきっかけにマスコミに取り上げられ、やがて雇用問題に直面している数百人の若者たちを仲間になって、厚労省をも巻き込みデモ行進のようになっていく。支えあい歩き続けることで、暗い過去や迷いから抜け出そうと成長していく清々しい若者4人の物語。（浜 智栄子）

今月のおすすめ本

わたしの世界ひびくパパ
クリス・ドネール 作
福音館書店
わたしのパパはあまりにもひどいので、牢屋に入られました。毎晩ポーカーに明け暮れ、お金も使い放題、お酒も沢山飲んで、地下鉄で大暴れ、ついには娘の私を人質に脱獄までしてしまいました。こんな無法者のパパが、唯一私にしてくれました。そのおかげで私は明日から生きていけそうなのです。児童書ながら極限まで追いつめた状況からの新たな光。父子の関わりは人それぞれですが、もう二度と会えないパパが娘に残した光とは？（島田 博子）

万治さんの手 関節やわらかいんだね

11月の暦
七五三祈禱祭
増沢 昭一作

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線259 FAX28-1070
E-mail jyoho@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131
E-mail syougai@town.shimosuwa.lg.jp
下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890
ご意見・お写真などをお寄せください